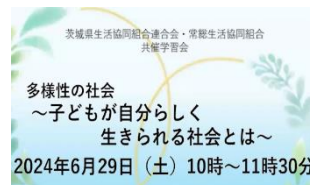


## 「多様性の社会～子どもが自分らしく生きられる社会とは」

オンライン学習会開催



6月29日度、茨城県生協連と常総生協共催で、社会環境の変化の中で生きにくさを感じ増えて規定する不登校の子どもたち、変わりつつある教育現場、そして地域の人たちの関わり合いについて、不登校・多様な学びネットワーク茨城の代表世話人 石田 佳織様 を講師に、学ぶ場を設けました。不登校・多様な学びネットワーク茨城は県内で不登校をテーマに活動する団体、専門医、カウンセラーなど126団体で構成され、連携して稼働がされています。

参加者は40名(事務局含)でした。参加者には会員生協の組合員・役職員、子どもが不登校に悩んでいる方、フリースクールに取り組んでいる方、県・市町村議員の方々に参加しました。

学習会では、石田様のお子様の不登校の実体験を交え、不登校となる原因は一つではないことや起こる問題や悩み、親の心身への影響や経済的負担、孤独感、周りの偏見、見えない将来などの話がされました。不登校はその子、その家族の問題とされてきましたが、2017年に施行された教育機会確保法のもと、教育を受けられなかった不登校の子どもに学習の機会を作るため校内フリースクールをはじめ、専任職員配置や一人ひとりに応じた学習支援など支援制度の取り組みが始まったことが話されました。

学校に復帰するのではなく、社会的自立のために「どこで学ぶではなく、何をどのように学ぶか」が大切で、その子が希望する過ごし方や場所を用意し、仲間や大人が寄り添う社会づくりが求められているとのことでした。他の人と同じであること、引かれたルールを外れたら問題とされて生きてきた私たち大人の意識や価値観を変えることが、SDGs「誰一人取り残さない」社会をつくる第一歩につながると思います。

### 【参加者の感想の抜粋】

「行政や自治体、地域の学校がもっと理解を深めて積極的にこの不登校についての問題へ取り組んでもらえたらなとしみじみ思いました」

「心を作るのは食べ物なので生協は十分に不登校の子どもたちを救えるのではないかと思った」

「うちの子が不登校になった十数年前から比べると格段に環境が変わって、子ども達にも居場所、親御さんたちの相談できる場所が増えてよかったですと感じました。行政などが相談を待つのではなく、積極的かつ主体的、迅速に、関わってくると不安に思うことなく生きられると思います」

「学校現場、行政が変わりつつあると、市民や社会がありのままの状況を理解していけるよう、そして何かしら力になれるようにそう願います」

ひとつの原因ではなく、  
子どもにとって困った/苦しい状況が、  
いくつか重なった時

校内フリースクール  
<茨城県での定義>  
① 専用教室が確保されていること  
② 専任職員が配置されていること  
③ 利用者一人一人の特性に応じた学習支援が行われていること

パーソナルスペース

【不登校支援として重要なこと】(私見)  
1) その子が希望する過ごし方や場所  
(+利用しやすい社会的支援体制)  
2) 心機や状況を理解し寄り添う仲間や大人の存在(保護者にとっても)  
(家族でなければ家外であれ)  
3) 過ごし方や選択によって将来の可能性を狭めない仕組みや社会づくり

自分のペースで自分の興味に応じて取り組む  
↓  
自分が過ごしやすいリズムや暮らし方に気づき身に付いたり、  
自信を取り戻して行ったり。